

1. 簾舞郷土資料館をリニューアル

札幌市の「未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業」の実施にともない南区の助成および簾舞地区まちづくり協議会と同センターの協力のもとに「簾舞郷土資料館展示品リニューアル(クリーニング・整備)」の事業が実施され、29年度1期目として昭和61年の開設以来31年あまり大規模な清掃整備等行われず、館内の農機具が雑然また馬小屋の造材用具が乱列され、埃(ほこり)や塵(ちり)も大量に溜まり保存会でも資料館の改善を図るべく検討中でしたが予算の関係から苦慮しておりました。この事に協議会やセンターから助成申請の協力をいただき当会も快諾し、追って事業が進められました。作業は、「清掃」を中心に業者を太洋美装(株)を選定して馬櫓の荷台や五衛門風呂の架台製作、陳列品を見やすく落下防止細工の大作業など埃にまみれながら、8月中旬より9月の「まつり」前までに完成で進められました。また故今井正造氏と保存会婦人部の傑作「馬」も埃を払い往時の姿を取り戻し来館者を迎えております。「通行屋まつり」には見違える館内となり、整備された資料館を見ていただくことができました。



(資料館「土間」と「馬小屋」・「馬」のようす)

2. 通行屋保存会第2回出前講座

昨年7月22日(土)保存会では、簾舞2区町内会の高柳晃氏の紹介により同氏が(旧)学芸大学時代から親交のある杉岡昭子氏【アジア招提を主宰】の第20回講演会への依頼を受け「開拓使簾舞通行屋(小休所)」について一歴史の流れの中にと題し、黒岩裕会員が会場の北区・サンプラザにて凡そ30名の参加者を前に講演を行いました。本願寺街道と国道230号の



(講演会後の懇親会・前列右から杉岡氏 黒岩会員)

歴史や開拓使と通行屋関係また文化財への経緯や建物の特徴そして資料館としての活用と保存会員の活動などを写真とBGMを取入れスライドショーにして大型スクリーンで見いただきました。主宰の杉岡氏は札幌市・板垣市長の時に女性局長として国際交流

関係で手腕を発揮され、退任後はサンプラザの理事長を務められ知識人であり、広い人脈と行動力を持った方でお仲間と通行屋も見学されました。

地域の歴史シリーズ No.9 2011.6 発行 旧簾舞通行屋保存会

まだ、スキー・リフトが普及しない昭和40年代前半までは、冬に一步外に出れば家の雪捨て場がゲレンデで銀座の坂や花岡神社の坂は、街灯の下で暗くとも夕飯の呼び出しがかかるまでスキーやソリ遊びをしたものです。また小学校の下級生は伊田の山、高学年や中学生は織田の山とスキーを担いでの授業や大会で利用され、全日本スキー選手権で注目された黄金山は、北海道地区予選会などで使われ有名な選手が滑走しました。しかし近郊の中山峠や近くの藤野ヘルスランドにリフト付きスキー場が完成してからは、簾舞の山々から次第に遠ざかりました。地区にこのほか豊滝の土田(小金山)スキー場や療養所の裏山が利用されました

簾舞のスキー場

資料 簾舞郷土資料館



1. 二星岱ジャンプ場(昭9-15) 現・簾舞中体育館のところ



2. 簾舞中ジャンプ台(昭31-37) 冬に斜面を当りに作りました 現・1区油谷宅のところ



3. 通称・伊田の山 上部の小高い山(昭28-38) 現・1区よつば団地とこり公園団地あたり



4. 通称・織田の山 現・2区磯見宅の後方あたり(昭31-45)、後方の山は豊栄山



5. 第30回全日本スキー選手権大会の黄金山会場(昭27)



6. 山の右側に移設した黄金山スキー場(昭31)



7. 療養所裏山での簾舞連町スキー大会(昭61)

通行屋 & 資料館 ここに注目

昭和26年の夏と 27年の冬...



建物はmini開拓村 展示品は昔を語る 物言わぬ学芸員



回転競技会場の黄金山から滑降競技会場の札幌岳前山966mを撮りました。今ではコースがどの位置か判明せず、旧豊平町の資料では「不動の滝」に降りるとありました。 三春久平氏撮影

第30回全日本スキー選手権大会・看板塔と滑降競技場

(左)札幌岳滑降競技場は、雪不足のため急遽、富良野市の北の峰(現・Furano)スキー場に変更。前年に全道大会を開催したが、その後は使われることなく自然に帰っていきました。

(右)歓迎看板塔は旧豊平町で製作して定鉄・滝の沢駅と砥山栄橋との間に作られ、ご来賓の高松の宮様と選手役員・関係者そして大勢の観客を迎えました。

